



学校教育目標 いきいき学び、心豊かに生活し、未来を切り拓く 子どもの育成

- ・事実と知識を大切にし、探究する子ども
- ・自ら調べ、考え、学ぶ子ども
- ・人とのつながりを大切にしている子ども
- ・豊かで楽しい生活を追い求める子ども

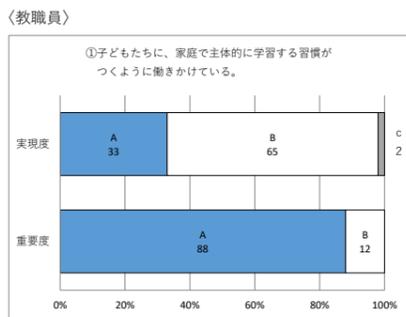
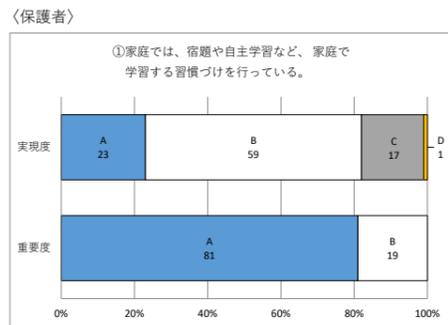
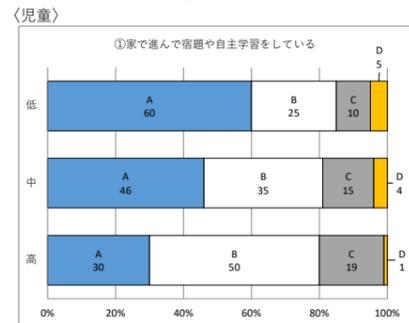
早春の候、保護者の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育推進のためにご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、今年度12月に実施しました前期振り返りアンケートの集計結果について、お知らせいたします。

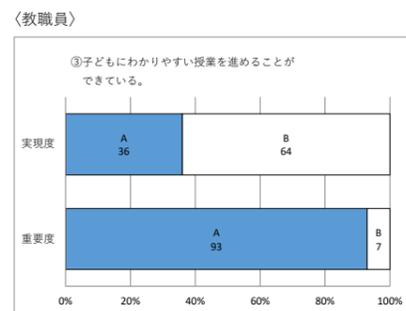
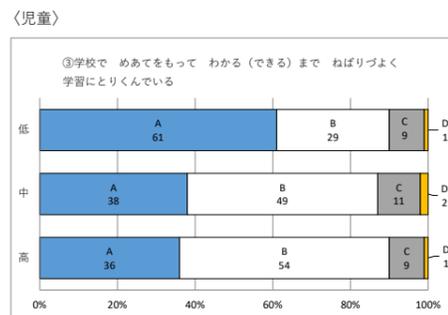
1 確かな学力

【家庭での自主学習】

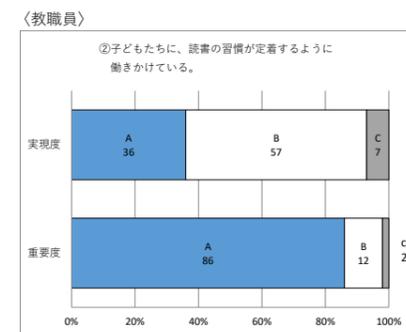
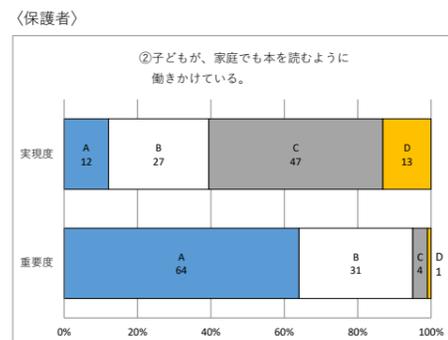
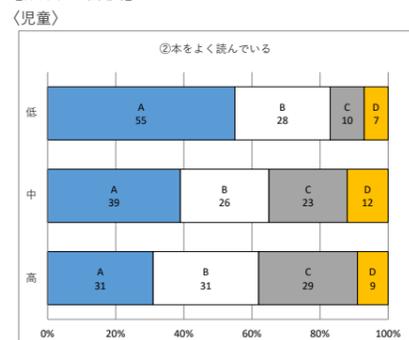
◇ 低…低学年(1・2年生) 中…中学年(3・4年生) 高…高学年(5・6年生)



【めあてをもって粘り強く学習に取り組む】



【読書の習慣】



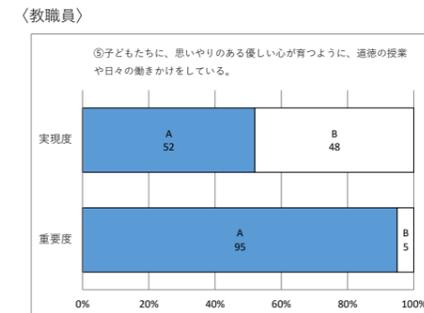
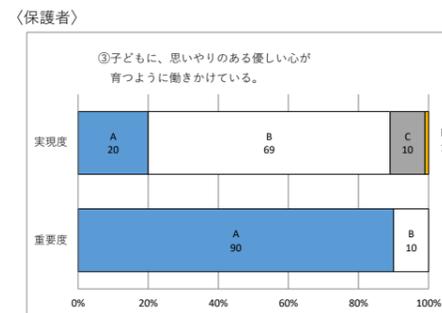
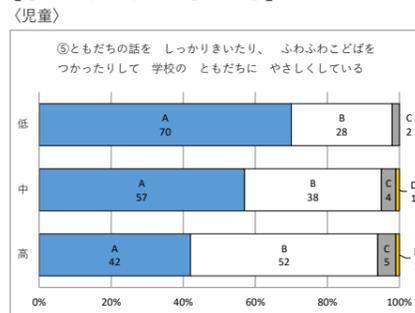
【めあてをもって粘り強く学習に取り組む】については、中学年・高学年ともに肯定的な回答が前期よりも増えました。合わせて教職員の結果も前期より肯定的な回答が増えました。児童が見通しや主体的性をもって学習に取り組むことができるような工夫を重ねるなどの授業改善を行ったことがこのような結果に結びついたと考えられます。

【家庭での自主学習】については、全体的に前期と比べて肯定的な回答が減りました。授業中に学習した内容を確実に定着させるために、発達段階に応じて家庭学習をすることのメリットを具体例を挙げながら、子どもたちに伝えたり、自主学習の良い学習例を紹介したりするなど、どのような学習をすれば良いかを引き続き示すことで子どもたちの意欲を高めていきたいと考えています。

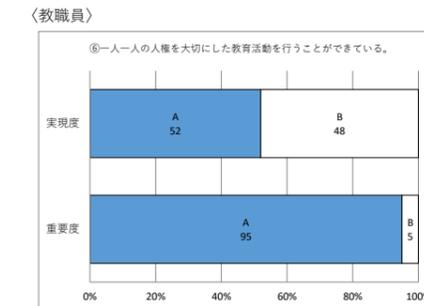
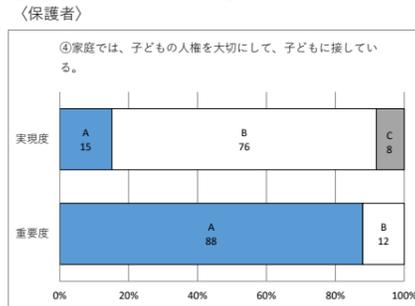
【読書の習慣】については、前期同様低学年ほど「本をよく読んでいる」と感じている割合が多く、学年が上がるにつれて減少する傾向が見られました。しかし、高学年では、前期と比べて肯定的な回答の割合が増えており、少しずつ読書に親しむ習慣が増えてきていると考えられます。図書委員会を中心として取り組んだ秋のもみじ読書週間では、多くの児童が自分のお気に入りの本の紹介カードを書いていた。また、図書委員会の児童のおすすめの本を学級文庫に置くなどの取組もおこなわれました。このように児童が全校で読書に親しむためにどうしたらよいかを考え主体的に取組を進めた結果であると考えられます。今後も図書委員会の活動を充実させるとともに、読書100冊マラソンを生かした取組も進めていきます。

2 豊かな心

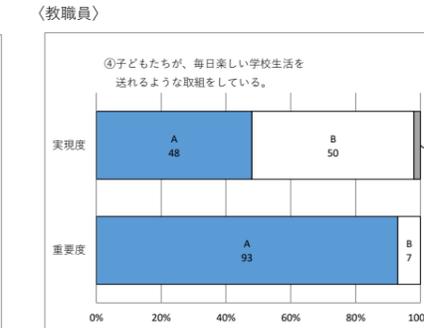
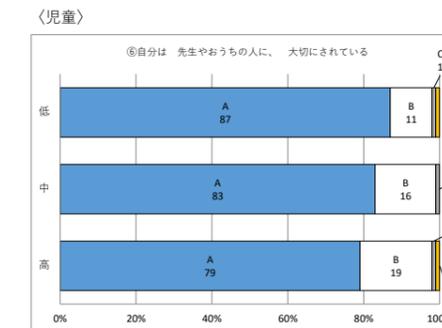
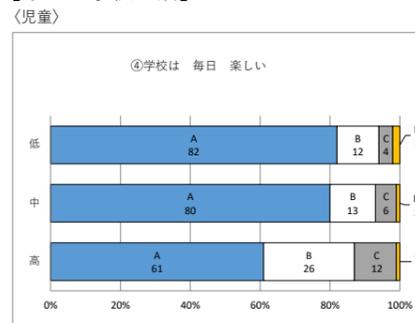
【思いやりのあるやさしい心】



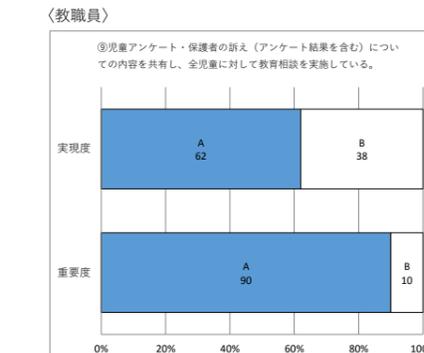
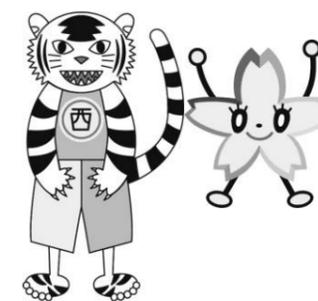
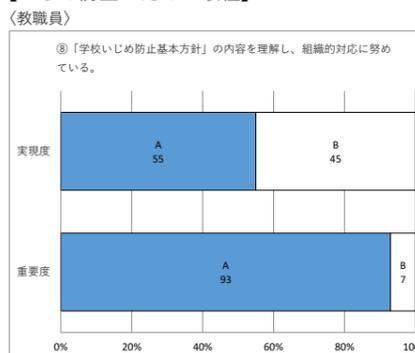
【人権を大切にされた教育】



【楽しい学校生活】



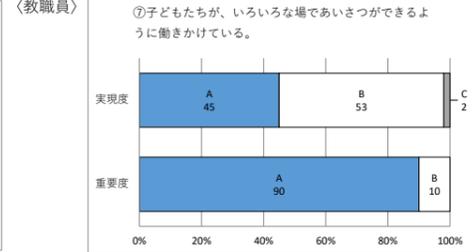
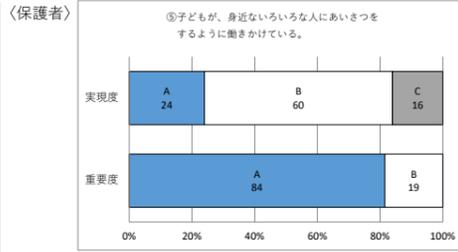
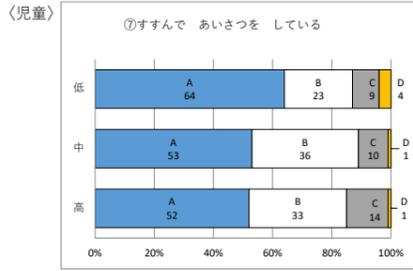
【いじめ防止のための取組】



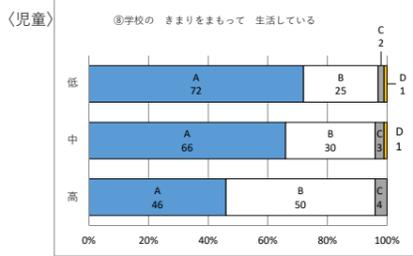
【思いやりのあるやさしい心】【人権を大切にされた教育】については前期同様、児童・保護者・教職員で肯定的回答が90%を超える結果となりました。またほとんどの項目で前期と比べて肯定的な回答の割合が増えました。本校のめざす「人とのつながりを大切にしている子ども」に向けて、学校や家庭での取組の積み重ねがこのような良好な結果を招いていると考えられます。しかし一方で前期よりは割合は少ないですが、CD回答の児童がいることもしっかりと受け止める必要があります。今後も道徳教育の充実、支え合い高め合う集団作りの推進を意識し、児童が多様性を認め合いながら尊重し合い、人とのつながりを大切にすることができるよう、人権意識を高めていきたいと思ひます。

【楽しい学校生活】については、「自分は先生やお家の人に大切にされている」と感じている児童の割合が低・高学年で98%、中学年で99%と前期同様大変高い結果となりました。児童が身近な大人から大切にされている、と感じられることは心の安定につながっていると思ひます。しかし一方でそうではないと感じている児童がいることもしっかりと認識していきます。この「振り返りアンケート」はもちろん、「いじめアンケート」、「クラスマネジメントシート」などを有効に活用し、児童の実態を把握することに努めていきます。そして、子どもたちにとって学校が安心して、生き生きと楽しく活動できる場となるよう、一人ひとりの子どもを徹底的に大切にされた取組を続けていきます。ご家庭におかれましても、お子様との対話を大切にいただき、様子を見守っていただけたらと思ひます。

【あいさつをする】



【規則を守る】

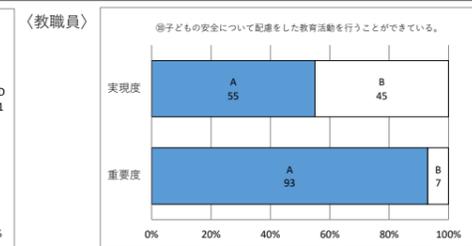
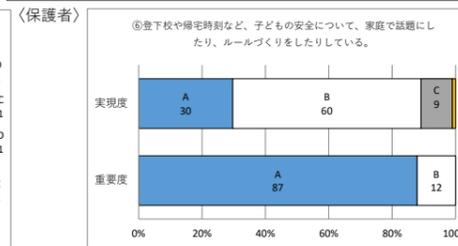
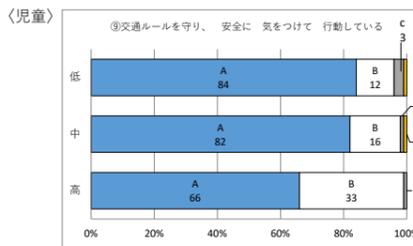


【あいさつをする】では、肯定的な割合が、前期と比べて中学年で少し増え、低学年・高学年で少し減りました。計画委員会を中心として、あいさつ運動の取組を進めた結果、あいさつに対して意識を深めた児童もいましたが、まだ十分に学校全体には広がっていないと考えられます。また、校内ではしっかりあいさつができているのに、登下校のときには地域の「子ども見守り隊」等の方々に自分からあいさつができにくいということもあります。今後はさらにあいさつに対する意識を高めるようなあいさつ運動の取組をすすめたり、あいさつをするこの意味をまず児童が考えることで実践したりするような働きかけをしていきます。

【規則を守る】では、前期と比べて肯定的な意見が増えました。学校全体で規則を守ろうとする意識が、定着してきた結果であると考えられます。今後も、規則には意味があり、それを守ることは、自分だけでなく友達を大切にすることにつながるという人権の視点についても児童が理解できるようにしていきます。

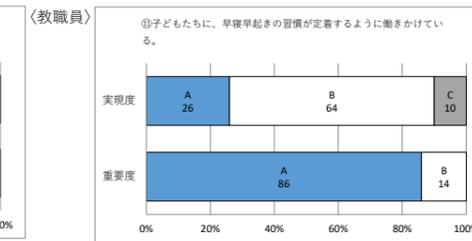
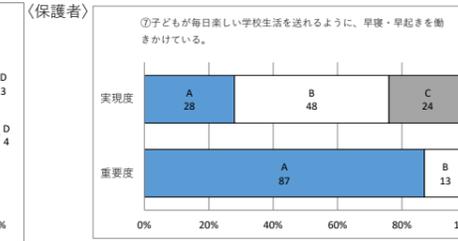
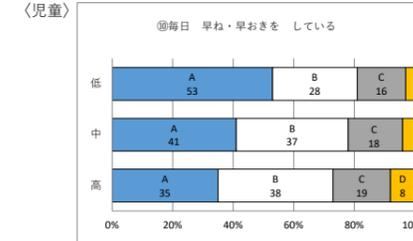
3 健やかな体

【安全に気を付ける】

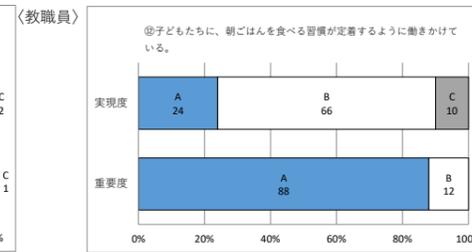
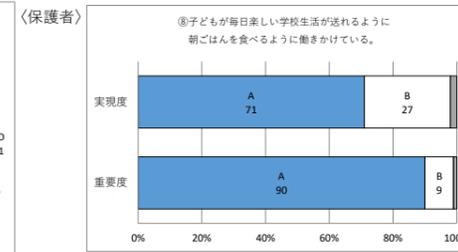
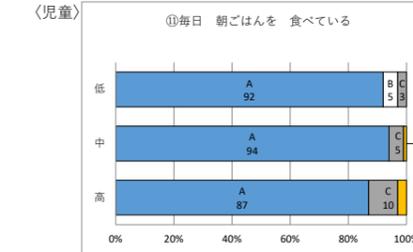


【安全に気を付ける】では、前期同様肯定的回答の割合が多くを占めています。学校と家庭が連携した児童への働きかけができていることが伺えます。また、地域の「子ども見守り隊」の方々も、児童の登下校の様子を毎日見守ってくださっています。しかし、児童の様子を見ていると、特に下校時に車や自転車が頻繁に通る道を広がって歩いたり、走っていたりする様子が見られます。今後も引き続き、子ども見守り隊の方々とも連携しながら、児童の様子を見守り、必要に応じて注意を促していきます。それをお便り等でご家庭にも発信することで、さらに連携を深めていきたいと思ひます。

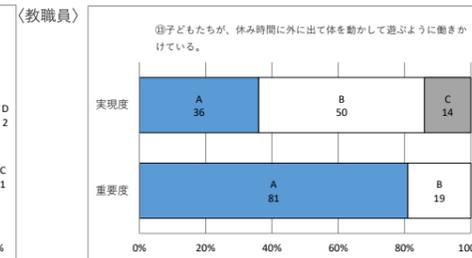
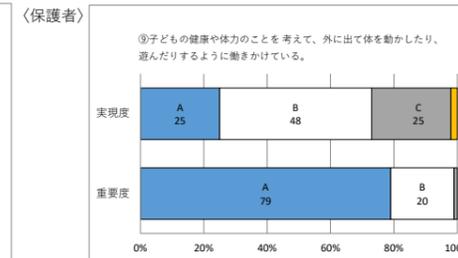
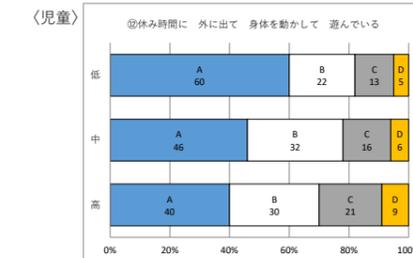
【早寝・早起き】



【朝ごはん】



【体を動かして遊ぶ】

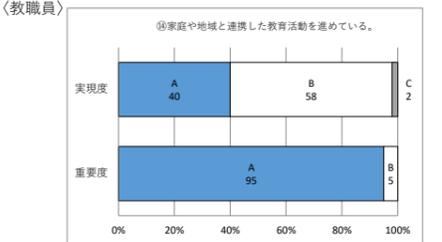
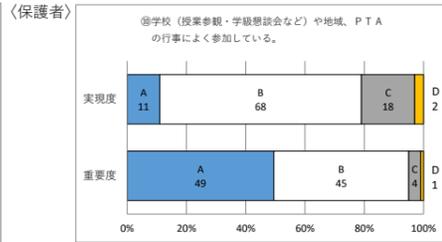
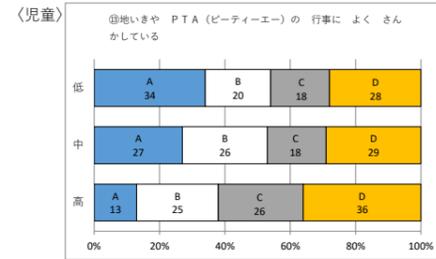


【早寝・早起き・朝ごはん】については、高学年の肯定的な回答の割合が前期と比べて増加したことから、早寝・早起きに対して若干の意識改善が見られるようになってきたと考えられます。その一方で低・中学年の肯定的な回答の割合が少し減少しました。それに合わせて、朝ごはんについて「食べられていない」と回答した児童の割合も全体的に少し増えています。やはり早起きができているために、朝食をしっかり摂ることができていないのだと思われます。引き続き各学級での指導に加え、保健だより等で睡眠時間の確保の大切さや時間の使い方、体育科の保健学習や養護教諭による保健指導、栄養教諭による食の学習とも関連させながら、規則正しい生活習慣の確立、健康への意識を高めていきます。またSNSトラブルに巻き込まれないように、情報モラルについての学習も進めています。1月には「SNSトラブルから子どもを守るために、今できること」というテーマで講演会を開き、京都府警察ネット安心アドバイザーの方から保護者、教職員ともにお話を伺いました。ご家庭でも子どもたちが加害者にも、被害者にもならないように正しくSNSを活用できるように、メディアを使う際のルールについて話題にしていきたいと思ひます。

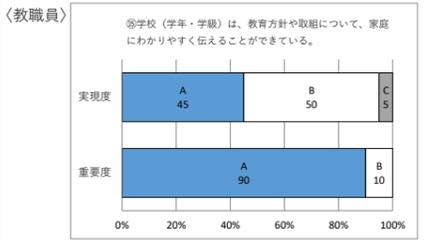
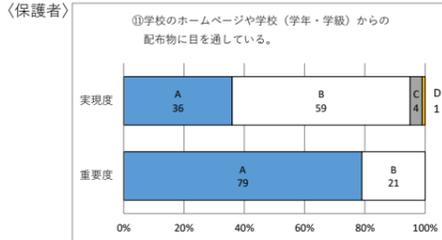
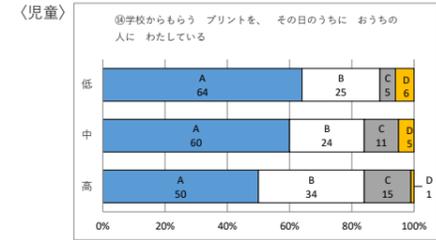
【休み時間に外に出て体を動かしている遊んでいる】については、前期に比べて肯定的な回答の割合が減りました。寒い季節となり外で遊ぶ機会が減ったことが要因ではないかと考えられます。1月からはジャンプアップ週間の取組の充実や、体育委員会の取組(大縄チャレンジ週間)を生かして積極的に外で体を動かす機会を作っています。

4 その他

【地域・PTA行事への参加】



【学校・家庭・地域の連携】



【地域・PTA行事への参加】については、前期と比べて、中学年・高学年での肯定的な回答の割合が増えました。区民体育祭や餅つき大会、親子グランドゴルフ大会など前期よりも子どもたちが参加しやすい行事が増えたことが要因と考えられます。今後も、「すぐーる」、「おたより」を通して行事への参加をよびかけて参ります。【学校からもらうプリントをその日のうちにうちのの人に渡している】では、前期と同様ほとんどの児童ができていると回答しています。しかし、学年が上がるにつれて肯定的な回答が減少しているという傾向も続いています。紙で渡すものは大事なお知らせであることが多いので、配布された日に確実にご家庭に届くように、普段から持ち物を整理整頓する習慣付けを今後も行っていきます。後期もすぐーる配信を利用して、昨年度の同じ時期より配布物を減らしています。さらに「すぐーる」では、緊急のお知らせを配信することもあります。必ず通知をONに設定していただきますようお願いいたします。また、学校ホームページについては今後もタイムリーに更新して情報発信に努め、家庭や地域の学校教育活動への理解を得るとともに、家庭や地域と連携した取組をさらに進められるようにと考えています。

◆学校評価委員会の皆様のご意見

- ・図書ボランティア「なごみ」のOBとして、読み聞かせをすることがあるが、子ども達が喜んでくれるのが嬉しい。OBと現役のボランティアの方々が仲良く活動できるのも嬉しい。今後もこのような形が続くとよいと思う。
- ・子どもたちの様子を見ていると、公園のベンチの上などに携帯電話を置きっぱなしにして遊んでいることがある。高価なものであり心配な面もある。携帯電話はとても便利なものであるが、その反面、正しく扱わなければトラブルに巻き込まれてしまうなど怖い面もあるということ子どもたちがきちんと理解することが大切。
- ・今年度は、りんごの産地のJA等との連携のもと、食に関する学習が行われた。児童数が多く、実施にあたり大変な面もあるが、食を通じて日本の風土など様々なことを学んでもらいたい。
- ・茶道体験をお手伝いした際、子どもたちに作法の説明をしたときに、感謝の気持ちを素直に返してくれたのが嬉しかった。
- ・昔遊び体験では、こまをととても上手に回す子どもがいた。その反面、紐を巻き付けるのも難しい子どももいた。まず、様々な昔の遊びを体験し、楽しんでもらうことが大切。

京都市教育委員会生涯学習部より発行されている「コミュニティ・スクール通信@京都」にも掲載されているように、子どもたちの学校生活をよりよいものにするためには、学校・家庭・地域が互いに高め合う双方向の信頼関係を構築することが何よりも大切です。そして、三者が「子どもたちのために、自分はどういうことができるだろうか。」という意識をもって、それぞれが教育活動に参画し、子どもを育むための取組を進めていくことが大切です。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。